

男女平等推進  
from  
むさしの

# まなこ

「ヤングケアラー」  
について知っていますか



子どもたちにも  
読んでほしい  
ページ ☺

- 丁寧に話を聞くことから始まる支援 . . . . . P.2
- 自分の人生は自分のもの。自分の道を歩いていいんだよ。 . . . . P.4
- ヤングケアラーはどんな悩みを抱えているのでしょうか? . . . . . P.4
- 「埼玉県ケアラー支援計画のための実態調査」について . . . . . P.6

# 「ヤングケアラー」

「いついて知っていますか」

「ヤングケアラー」は、家庭内のこととして周囲から気づかれず孤立してしまうケースが多いと言われています。その現状や支援について考えてみました。

## 丁寧に話を聞くことから始まる支援

最近メディアでも耳にすることが増えた「ヤングケアラー」。

ヤングケアラーとは、課題や支援について、この問題を研究している澁谷智子さんに伺いました。

### ヤングケアラーとは

「ヤングケアラー」というのは、慢性的な病気や障がい、精神的な問題などを抱える家族の世話をしている18歳未満の子どもや若者のことを指す言葉です。イギリスで使われ始めた言葉ですが、介護者支援をしていく中で、介護を担っている人の中には未成年者もいることがわかり、子どもだからその配慮が必要だということでの言葉が生まれました。

ケアと一言でいっても様々です。食事介助や車椅子を押すといったわかりやすいものから、徘徊したおばあちゃんを探しに行く、外国人の親の通訳をするとか、精神疾患を抱え

「死にたい」と泣いている母親に一晚付き合うといった感情面のケアというものもあります。

ヤングケアラーが注目される背景には、家族の人数の減少があります。1953年には一家庭あたり5人くらいだったものが、2016年になるとその半分くらいになり、共働きも増え大人は自分の時間とエネルギーを外で使うことが多くなりました。一方で少子高齢化となり、ケアを必要とする人は増えていきます。平均寿命に比べ健康寿命は短く、最期の10年くらいはケアが必要な状態で生きるの平均的な日本人のあり方になってきています。人口が減っていく中で女性も高齢者も社会で働くことが増えましたが、その

一方で家事は減らず、また日本はまだケアは家族で行うものという前提の社会になっているので、そのしわ寄せが子どもにいつているのです。

### ヤングケアラーが抱える問題

ヤングケアラーは多様です。ケアをしているという点では共通しますが、いつケアを始めたかやどのようなケアをしているかなど、人それぞれ違うので、ヤングケアラーが直面する問題を一概に言うことは難しいです。とはいえ、人生のかなり前半でケアを担うことが当たり前になっていると、生活とはそういうものだと思っていて、どの程度からサポートを求めているのかわからないということがあります。

しまい、自己肯定感が下がってしまうこともあります。イギリスでは、ケアに水路つけられる、という言い方をしますが、自分が多くの時間を使ってきたことはケア関連のことなので、仕事を選ぶときにもそのケアに近いものをなんとなく選んでしまつ傾向もあるようです。

### ヤングケアラーへの支援

支援が進んでいるイギリスでは、週に1回、同年代のヤングケアラーが集まってレクリエーションをしたり、夏休みにはキャンプや遊園地に行ったり、その中でケアについて知っている大人が支援をするということが行われていますが、日本ではまだそういった組織だった支援はされていないと思います。でも、特定の障がいを持つ方の家族会のようなピアサポートや障がいを持つ方のきょうだいの会というのは以前からあり、「ヤングケアラー」という言葉が出てきたことで活動が積極的になってきているところはありません。

子ども食堂で学習支援教室などを開催する動きも出ていますが、そこで「ヤングケアラー」という視点でのイベントなどを開催していったら...と思います。また、学校で

相談に乗ってもらえるような支援というのはいくつか感じます。事情をわかってくれて、宿題や課題の提出を融通してもらえたり、家で勉強ができるような環境でない場合に、宿題などができる時間や空間を学校で確保してもらったりというのは、意味のあるサポートになると思えます。今は、子どもの話を聞ける立場の人が圧倒的に少ないのです。アドバイスとかお説教とかにならないでちゃんと聞くことが大事ですが、みんな忙しすぎて、今の仕組みの中で丁寧に話を聞ける人はなかなかないような気がします。そういうことを相談できるような雰囲気や学校の中にもあるといいと思います。

支援をするときには、支援を受ける側がまるで無力であるかのように扱ってしまわないことが大切だと思います。その子たちがやりたいことをできるようにするにはどうすればいいのかわかるとして考えて、整理・言語化して、到達するまでの道筋や行程を具体的に伝えるようにしてあげると、子どもたちはできないと思っていただけでも「できるかもしれない」という予感を持つことができます。そういう支援が大事ではないかと思えます。

ひとりの人の中にも矛盾する気持ちがあることもあります。家族のケアをしたいと思う一方で、将来を不安に思う気持ちがあったり、いつまでケアが続くのかと途方に暮れたり、本当だったら大人がやるべきだというような気持ちを持ってしまったり。このような気持ちは実際にケアを体験した人にしかわからないことでもあります。ましてやヤングケアラーとなると、周りにケアを自分のこととして担ったことがある人はごく少なくなります。なかなか自分のことをわかってもらえず助けを求められないこともあるので、やはり、丁寧に話を聞くところから始まると思います。

### 社会全体で考えよう

現在の新卒一括採用という仕組みは、ヤングケアラーにとって、かなり厳しいものになっています。ケアのために学生時代に十分に勉強ができなかったとしても、学び直して成果を出せば企業がそれをきちんと評価して相応の仕事ができる環境を作るとか、ケアを優先する時期と仕事を優先する時期を行ったり来たりできるとか、融通が利くようになるか、いいと思います。ケアをしてきた人

### 澁谷智子さん

成蹊大学文学部現代社会学科教授。専門は社会学・比較文化研究。厚生労働省「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」検討委員会委員。著書に「ヤングケアラー介護を担う子ども・若者の現実」（中公新書）、編著「ヤングケアラーわたしの語り―子どもや若者が経験した家族のケア・介護（生活書院）など



周りの子と違うと思っていただけで、なぜそうだったのか言語化して語れるようになったのは大人になってからだという人は結構います。

学生の間は同世代との比較の中で生きていくことが多いので、他の子と自分の生活にすぐギャップがあることを意識しながら、あの子にはできることが自分は時間的にも体力的にも気力的にもできない、という気持ちを積み重ねやすいということがあります。それを自分の能力の問題のように感じて

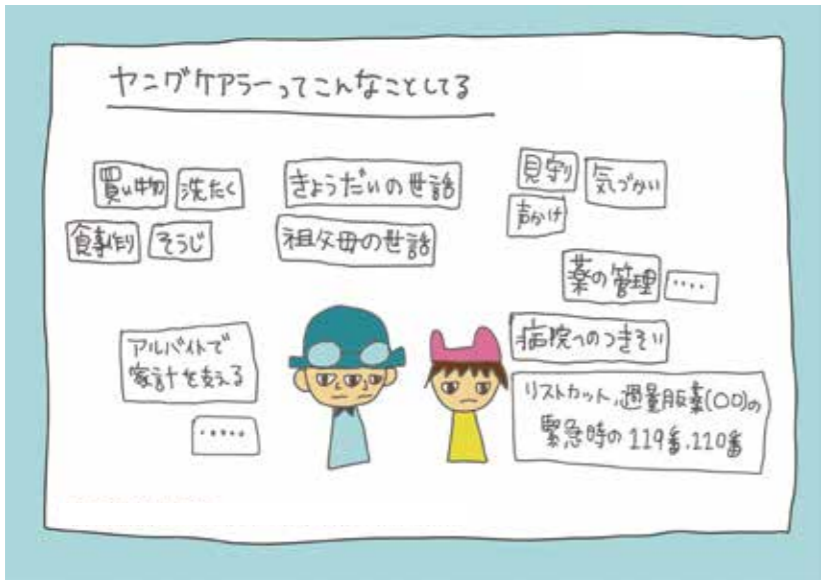
たちの経験がどう生きるのかという視点で企業が見てくれると、ヤングケアラーも随分安心できると思います。ケアを担っている人たちの中に鬱などになってしまつ人が出てくるのはどうしてなのか、本気で考えなくてはなりません。個人の問題として放置するのではなく、どうしたら軽減できるのかを社会全体で考えていくことは意味のあることです。

イギリスの国民保健サービスのサイトには、ヤングケアラーに向けて、「あなたは家族のケアをしたいと思うかもしれないけれど、あなたがしてあげられるケアの量とタイプを見極めることが大事。ケアが必要な人は行政からサポートを受ける権利があるのだから」ということがわかりやすく書かれています。子どもが2年以上誰からのサポートも受けないでケアを続けていると自分の健康や幸福感や自己評価においてマイナスの影響が大きくなることが多い、という研究結果もあります。子どもがケアをしたいという気持ちも尊重しつつ、立ち止まって考えることも必要です。このような情報も子どもたちの目に触れるようになることが大事だと思います。

「取材 秋山茉莉奈／取材・文 若林優香」

# 自分の人生は自分のもの。 自分の道を歩いていんだよ。

「NPO法人ふるすあるは」は、ウェブサイトや絵本の出版などを通して、病気をかかえた親と家族、特に子どもたちを応援している団体です。絵と文を担当している看護師の細尾ちあき(活動名チアキ)さんと、代表で医師の北野陽子さんにお話を聞きました。



ほかにも、入浴やトイレの介助、聴覚障がいがあったり日本語を話さない家族のための通訳などいろいろあります

**チアキ** 精神科の看護師として働いている中で、心の病気をかかえている患者さん本人だけでなく、子どもたちへの説明やケアが必要だと気付きました。子どもは、親の具合が悪いのは自分のせいかと一人で悩んでしまうこともあるからです。

**北野** 医療機関では、患者さんの子どもにまではケアが届かないのが現状です。そこで、子ども向けのプログラムで使えるツールを探したものの見つからず、自分たちで作るしかない。チアキ手作りの紙芝居が思春期の子どもたちにも好評で、手応えを感じました。それが今の活動につながっています。チアキのユニークな感性が子どもたちにも伝わるのかなと思います。

**チアキ** 私は、上から目線で「○○したらいいよ」と言ってくるような大人が苦手で、差し伸べられた手を払いのけるような子どもでした。だから、絵や文をかくときは、子どもっぽくならないように、子どもあつかいしないようにしています。

イラストに登場するキャラクターのMIRUには目が3つありますが、2つの目は現実を

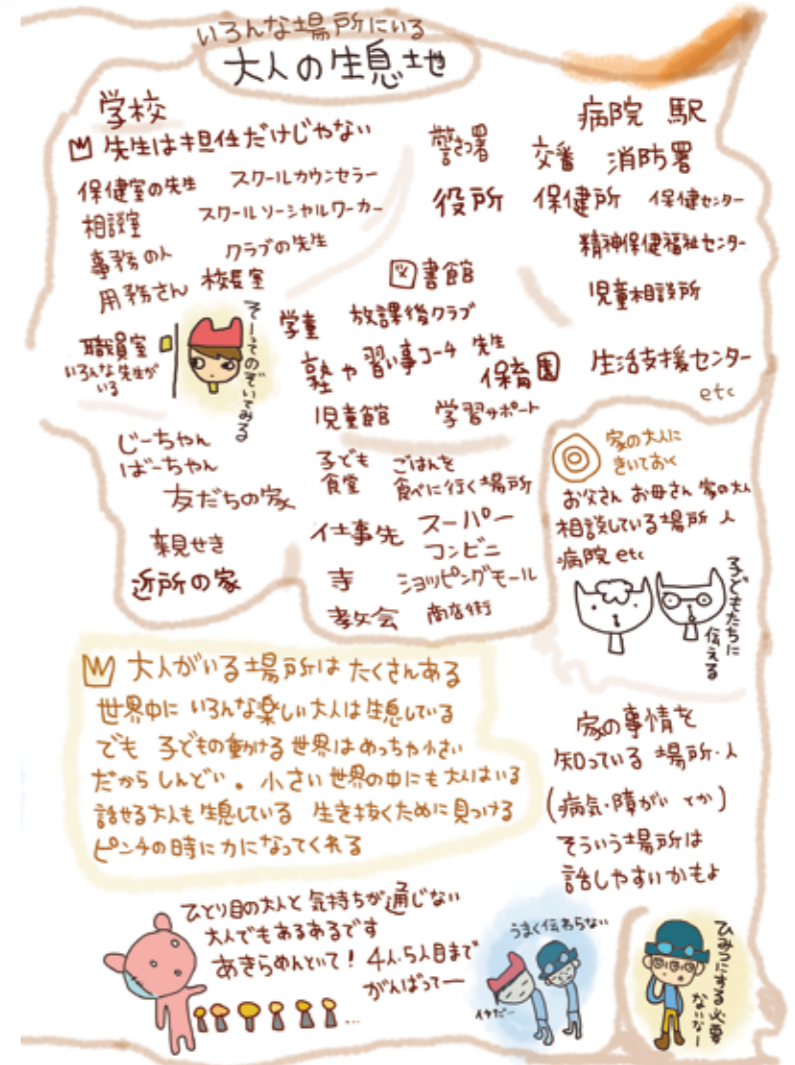
見る目で3つめの目は見えないものをしっかりと見分ける目です。子どもにだって二面性があるといいよ、怒っているけど笑っていたり、泣いているけど笑っていたり。相手の大人によって心を開かないと思われている子もいるけれど、子どもが2つの顔を使い分けるのも生きるための工夫なのだととらえてほしいなと思っています。

**北野** 周りの大人の方には、子どもたちとちょっとした挨拶とか、特別でない日常の会話ができる関係を続けていただけるとよいと思います。そうしたら子どもが本当にピンチのときにSOSが出せるかもしれません。

**チアキ** 私自身、落ち着かない家庭で育ち、早く自立したいという思いで看護学校に入りました。看護師という仕事は向いているし、後悔もしていないけれど、もっと広い世界があると知っていたら、とも思います。

子どもたちには「自分の人生は自分のものだから、自分の道を歩いていんだよ」と伝えたいです。

【取材 久富明美/取材・文 藤田和香子】



出典：『生きる冒険地図』著 プルスアルハ 文と絵 細尾ちあき 学苑社

## ヤングケアラーのみなさんへ

いつも年れい以上の役割をしてくれてありがとう  
しんどい、こまった、わからない、もうイヤ...って  
気持ちになっていませんか？

そういう気持ちになることは当たり前なんです。  
大人の役割を引き継ぐことは大変です。  
むずかしいと思うけど、あなたの「しんどい」を  
大人のちにもたして下さい。大人のカを使って下さい  
子ども時間はあなたのものです。

大人がするべきことは大人にまかせて  
子ども時間を自分のために使ってください

私をヤングケアラーでいた チアキ



## ヤングケアラーはどんな悩みを抱えているのでしょうか？

厚生労働省「令和2年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業ヤングケアラーの実態に関する調査研究報告書(三愛UJリサーチ&コンサルティング)」(2021年3月)に寄せられた声を抜粋しました。【...】一部省略しています。

- \* 私には障がいのあるきょうだいがいる。きょうだいが生まれたことで母が私の習い事の送迎ができなくなり、私は習い事を辞めざるを得なかったことがある。きょうだいが体調を崩し、母が仕事を休めなかったときは、私が風邪を引いたということにして学校を休み、看病をしたことがある。また、きょうだいの保育園やデイサービスへ迎えに行ったことも何度もある。...しかし、きょうだいと関わったことで医療職につきたいと思うようになるなど、将来の道を決めることもできた。...きょうだいがいることで諦めたことやできなかったことはあるが、それと同じくらい喜びや将来の選択肢をもらったので、きょうだいがいなければ良かったと思ったことは一度もない。
- \* 睡眠時間も削られてしまうこともあり、

- 授業中眠くなったり、集中が切れることがよくあるので、気軽に先生方に勉強の仕方や分からないところを質問できるような環境が欲しい。勉強面でも生活面でも精神面でも安心できるような環境が欲しい。相談も勇気がないとなかなかできないので、相談しただけでも褒めてあげて欲しい。
- \* 当時は自分が大変だとは気が付いていなかった。大人になって、自分中心の考え方が出来ないことに気がついた。常にきょうだいの予定が決まっていたから、その隙間時間で自分の予定を決めていた。きょうだいがしたいことを支えて、余裕があれば自分のしたい事をしてきた。本人がしたい事をしてほしいと周りの大人が強く言い続けたり、家事や労働を支援してくれるサービスがあるといい。家族を大事にするのと同じように自分も大事してほしいと伝える精神的なケアも必要だと思う。支える経験、支えられた経験があると社会に出たとき役立つと思う。

- \* 自分がヤングケアラーなのかどうかは正直どっちでもいいが、今の状態はしんどい。母に愚痴を言われすぎると、相談はしにくい。家族よりも友達の方が好きだし、相談もしやすい。一番辛かった時期も自分だけで考えて答えを出したり、家族は私の事見てるのこなって思った。全部を代わって欲しいとか、ここから逃げ出したいというわけではなく、私にも少し余裕が欲しい。
- \* ...もっと大人に子どもにも権利があることを知ってほしい。

—いま盛んにメディアに取り上げられているヤングケアラーを、昨年の段階でいち早く実態調査されたのはなぜでしょうか

本県は、全国トップクラスのスピードで75歳以上の後期高齢者人口の増加が見込まれ、また、家族構成も従来に比べ大きく変わり、単身世帯、核家族化も進んでいます。一方、社会においては「家族が介護するのは当たり前」といった考え方がいまだに根強く存在しています。そのため、ケアラー（ヤングケアラー含む）が孤立し、悩みを声に出しにくい環境となっております。

そのような中、地域で介護などをする人を支えるために、議員提案による政策条例として、令和2年3月、全国初となる「埼玉県ケアラー支援条例」を制定しました。

条例に基づくケアラーの支援に関する推進計画を策定する上で、顕在化されていないヤングケアラーの実態を把握する必要があったため、同年7月、県内高校2年生を対象に全

国初の大規模実態調査を行いました。過去の研究調査等による結果から、一定程度存在すると想定していましたが、約25人に1人という数字は決して少なくないと受け止めています。

調査はこのほか、ケアラーの実態調査や、ケアラー・ヤングケアラーに対する一般的な認知度を把握するための県政サポーターを対象としたアンケートも行いました。

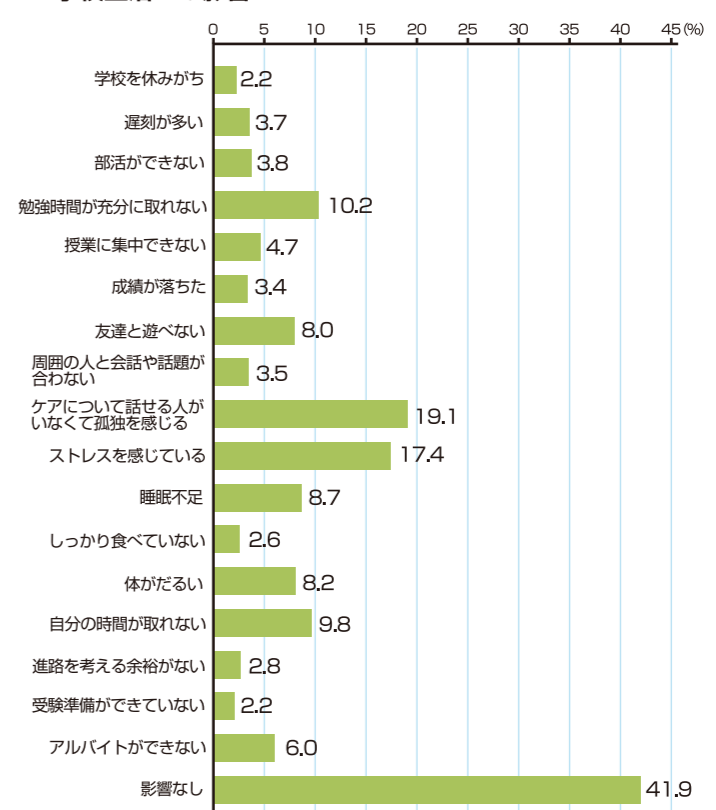
—県民、支援団体、他の自治体からの反応はありましたか

全国初の条例ということもあり、マスコミによる報道が増えたことから、県民等から具体的な支援策等の質問や自らの経験を生かしてほしいなどの意見、個人からの寄付の申し出など、反応は数多くありました。また、全国の自治体や議会等からも多くの問い合わせがありました。

—相談窓口の整備や庁内の連携についてはいかがでしょうか

子どもたちの様々な悩みに対する相談については、従来から開設している電話やSNS相談体制を活用し

■学校生活への影響（複数回答）



つつ、更なる充実に取り組んでいきます。また、周囲の大人に話じらいことを相談する場として、オンラインサロンを開催し、元ヤングケアラーとヤングケアラーの交流を促進することや、各相談機関の職員向けに研修を実施します。さらに、福祉分野と教育分野が連携して適切な支援を行うため、合同研修や検討の場を設置し、体制づくりを進めます。

条例に掲げられた基本理念を踏まえ、県だけでなく、多様な主体が相互に連携を図りながら、社会全体でヤングケアラーを支えていけるよう支援体制を構築していきます。


「取材・文 島崎理恵」

\*ケアラー  
高齢、身体上又は精神上の障害又は疾病等により援助を必要とする親族、友その他の身近な人に対して、無償で介護、看護、日常生活の世話その他の援助を提供する者をいう。  
埼玉県ケアラー支援条例定義より

TOPICS

●武蔵野市パートナーシップ制度導入検討報告書が答申されました

パートナーシップ制度導入について、市長からの諮問を受け、武蔵野市男女平等推進審議会が審議を進め、「武蔵野市パートナーシップ制度導入検討報告書」を3月29日、市長に答申しました。答申を踏まえ、市では、パートナーシップ制度導入に向けて準備を進めています。



●福祉総合相談窓口の開設

☎60-1254 月～金 午前8時30分～午後5時

4月1日に同相談窓口を生活福祉課に開設しました。福祉に関する「どこに相談すればよいかわからない」困りごとや生活の不安を伺い、関係部署や機関と連携しながら、課題の解決に向けて支援します。ひきこもりに関する相談も受け付けています。


ヒューマンあい だより

講座レポート

- 転妻カフェ in むさしの
 

日時>令和3年5月18日(火)10:00～11:30  
会場>武蔵野スイングビル10階 スカイルーム

パートナーの転勤に伴う引越して武蔵野エリアに転入した方々が、コロナ禍で多様化した転勤族の悩みや解決策などを共有しました。


- どうしてる？遠距離介護～コロナ禍を乗り切るために
 

日時>令和3年5月22日(土)14:00～16:00  
会場>市民会館 2階 講座室

講師>太田 差恵子さん(介護・暮らしジャーナリスト、NPO法人パオコ理事長)

仕事と介護の両立、遠距離で介護するコツなど、コロナ禍でも自分の生活も大事にしながら、年寄いた親へのよりの確かな介護・サポートするにはどうしたらよいかをご講演いただきました。
- キッチンから始まる家族のつながり
 

日時>令和3年6月19日(土)10:30～12:00  
会場>武蔵野市民文化会館 小ホール

講師>コウケンテツさん(料理研究家)

3人のお子さんの父でもある講師から、夫婦の家事・育児分担、親子の食育、食を通してのコミュニケーションについてお話いただきました。
- 身近な問題としてデートDVを考える(成蹊大学と共催)
 

\*オンライン講座

日時>令和3年5月20日(木)13:10～14:50  
講師>西山 さつきさん(NPO法人レジリエンス代表)

「その恋本当に大丈夫?」と題し、好きな相手でもイヤなことはイヤと言え、互いを尊重しあえるイイ関係を築いていく道を探りました。

相談窓口のご案内 相談無料 秘密厳守

- ◆女性総合相談
 

女性が暮らしの中で抱える様々な悩みについて、女性の専門相談員がお話を伺い、解決に向けて一緒に考えます。夫やパートナーとのこと、家族のこと、職場や学校でのことなど、どんな些細なことでもかまいません。誰かに話すことで、気持ちが楽になることもあります。お気軽にご相談ください。

【相談方法】面接・電話による相談  
【相談時間】1回50分/予約制

第1土曜日	①13:00～	②14:00～	③15:00～
第2金曜日	①18:00～	②19:00～	③20:00～
第4火曜日	①9:00～	②10:00～	③11:00～
- ◆女性法律相談
 

離婚・扶養(養育)・相続などの法的な対応や手続きについて、女性弁護士が相談に応じます。

【相談方法】面接による相談  
【相談時間】1回30分/予約制

第1土曜日	①9:30～	②10:10～	③10:50～	④11:30～
-------	--------	---------	---------	---------

【申込み方法】「ヒューマンあい」窓口または、電話にて予約を受け付けます。  
【予約電話番号】0422-37-3410(木曜・年末年始を除く午前9時～午後10時)
- ◆むさしのにじいろ電話相談(性的指向・性自認に関する相談) ※予約不要
 

セクシュアリティ全般や性的指向・性自認に関する悩み・相談に専門相談員が応じます。ご本人のみならず、ご家族や支援者の方などからの相談にも応じます。一人で悩まず、まずご相談ください。

第2水曜日	17:30～20:30
-------	-------------

【相談時間】1人30分から1時間  
【電話番号】0422-38-5187

面談をご希望の方はこちらへ▶0422-37-3410

武蔵野市立男女平等推進センター「ヒューマンあい」ご利用案内  
〒180-0022 武蔵野市境2-3-7 市民会館1階 開館時間：午前9時～午後10時(木曜・年末年始 休館)  
電話：0422-37-3410 FAX：0422-38-6239 Eメール：danjo@city.musashino.lg.jp

～埼玉県ケアラー支援 WEB 講座の公開動画～  
ヤングケアラー経験者 YouTube動画



『まなこ』は文字通り「眼」。人やまちや文化や地球を、男女平等推進の視点＝「まなこ」で見たいこう！という思いで名付けられました。1991年創刊以来、市民が企画・編集にかかわっています。

## 令和2年度『まなこ』第3回サポーター会議 110号「コロナ禍の家族関係」を読んで

◎社会的に弱い立場の人の実態が分かり深刻だと感じたと同時に、適切な言葉はわからないが、今その問題が浮かび上がってきたとも思った。文中にも「支援につながるには自覚することが大切」とあったが、コロナ禍は社会が現状を自覚する機会になったのではないかと思う。

◎私は独身時代に商社で働いており、良いことも悪いことも「女性だから」に振り回されたため、それから脱しようと思ってきた。しかし、息子がかわいいうキャラクターの自転車がほしいと言ったときに「えっ」と思ったことがあり、自分の中にも「べき」があることを認識した。

◎幼稚園の中でも性別による指導・保育内容の違いを感じることもある。このような教育についても、みんなで考えていきたいと思った。

◎SNS相談の終点は地域の支援者につながることで、という言葉が心に残った。もし支援者のような立場になることがあったら、周りの人と一緒に解決できる人になりたい。見えていないだけで、身近にも手を必要とする人がいるかもしれないというアンテナをはりたい。

◎男性学の記事では、男性も力や上下関係などの呪縛の中で苦しんでいるのかなと思つた。

## 令和3年度『まなこ』サポーターを紹介します！

※一部仮称を使用しております

### 大坂由香理

大学でジェンダーを学び、海外で貧困の現場や多様な文化を見てきました。日本も課題が山積、皆が自分らしく生きられるように！

### 坂本 愛

この社会を当事者の自分たちの手でよりよく変えていく。小さくとも一歩一歩。まずは知る。次に関わる。私をはじめてみます。

### 大藤るり

皆何かしらの事情と共に生きている。お互いの状況について知ることが、相互尊重への第一歩。『まなこ』を通して視野を広げたい。

### 田崎美樹

我が子がジェンダーという言葉のない世界で生きてほしい。昨年、結婚と出産を経験し、生活が一変した育休中の27歳です。

### 中村勇太

コロナ禍は、様々な当たり前を変えた。当たり前もきつかけがあれば変わる。『まなこ』が男女平等への意識を変えざるをくつかけとなるように。

### 野津裕昭

相手を「尊敬」できなくても「尊重」なら少しはできるかな…。まず、自分の姿勢を改めることから始めようと思っています。



4月28日(水) 市役所 813会議室にて

### 廣田直美

散歩が大好きです。方向音痴なので、同じ道を行ったり来たりしています。それでも、毎日何かしら発見があり、楽しいものです。

### 曲刈かほり

女性やLGBTの方の社会的地位の向上、男らしさの呪縛等、男女平等問題を学んだ昨年。今年は更に一歩踏み込んで考えていきたいです。

### 三上美洋

「個人的なことは政治的なこと」という言葉のとおり、私個人の経験が読む方の心に届き、より良い社会に近づく一助となれますように。



『まなこ』サポーターの200字コラム

## ヤングケアラーについて

### 誰でも突然ケアラーになり得る

大坂由香理

大学時代、祖母を介護する母の力になりたいと、できることをしたが、家族がらみのことは私自身や生活が飲み込まれるほど影響力が大きかった。渦中になっていると困りごとに気づけず、助けを求められない「学習性無力感」に陥ってしまつた。家族のためでも自分軸を忘れず、精一杯やっている自分を認めてつらいことや本音を素直に話したい。

子どもたちの学びを守ることは大人や国の責任で、意欲や希望を持ってない背景をみる必要がある。

### 頼りたいと思われる大人でありたい

曲刈かほり

ヤングケアラーへのアンケートで、相談経験がないと答えた中高生が共に6割を超えている。相談しても状況が変わるとは思わない、誰かに相談するほどの悩みではない、というのが主な理由である。子どもたちに安心して相談してもらうためには、相談してくれらるよう解決に向かえるのか等、まずは援助内容の具体的な提示が必要に思う。

社会全体で育まれる存在であり、守られる権利があることを子どもたち自身に感じ取ってもらいたいと切に願つた。

### 子どもをヤングケアラーにさせないために

三上美洋

私は障がいがあるため、人前で話すことやアイデアを出すことは得意だが、家事や事務作業は壊滅的で疲れやすく、仕事以外ではゴロゴロしてばかり。私ができない家事や子どもたちの世話をしてくれている夫の理解がなかったら？子どもたちは確実にヤングケアラーだ。できるだけ子どもたちに心身のケアを負担させないように、彼らが子どもらしく甘えられるよう、折る思いで毎日「大好き」の気持ちを伝えていく。

## Editors' Notes 編集 \* 後記

「家族は助け合うもの」当然の考えかもしれない。ただ、この社会の様々なシステムは、ケア労働に責任を負わなければならないと作り出されていることも多い。当然あなたも負う役割なんてない。どうか周りに相談してみてください。(秋山茉莉奈)

「当事者がいる」だけではなく、社会としての関心が高まることで制度が作られるのだとしたら、声をあげないといけないなど強く感じた特集でした。(小西美穂子)

元ヤングケアラーの体験談は、壮絶で想像以上に自己犠牲にされており胸が痛みました。もしかしら身近にいるかもと感じていたらと思つた。(島崎理恵)

全ての人に平等に与えられているはずの時間を自分のために自由に使えない子どもたちがいる現実、家族の問題ではなく社会の課題。多くの方の目に留まってほしい。(久富明美)

ぶるすあるはさんのウェブサイトや絵本を通して、子どもや周りの大人に必要な情報が届きますように。『まなこ』がそのきっかけになったらうれしいです。(藤田和香子)

我が家も核家族、誰かが病気になったらと思つた、ヤングケアラーは遠い世界のことではない。融通の利く社会は誰にとっても生きやすい社会だと思つた。余裕のある社会になることを願つた。(若林優香)

### \* STAFF \*

サポーター	大坂由香理 坂本 愛 大藤るり 田崎美樹 中村勇太 野津裕昭 廣田直美 曲刈かほり 三上美洋
取材・編集	秋山茉莉奈 小西美穂子 島崎理恵 久富明美 藤田和香子 若林優香 武蔵野市男女平等推進センター担当職員
編集協力	栗原 毅
表紙デザイン	ふじわりりわ
レイアウト	上田ジュンコ
印刷	シンソー印刷株式会社

『まなこ』は市役所、市政センター、図書館、コミュニティセンター、駅、医療機関、理美容院、大型店舗、金融機関、おふろやさんなど市内の約490か所に置いてあります。バックナンバーをご希望の方は、男女平等推進センター「ヒューマンあい」まで。

\*配布は、公益社団法人武蔵野市シルバー人材センターのご協力を頂いております

市ホームページでもバックナンバー  
をご覧ください。

武蔵野市 まなこ  検索

◎綴り込み返信はがきで、ご意見や感想をお寄せください。次号は、2021年11月発行予定です。